

隨泉寺寺報

平成19年(2007年) 11月号 第447号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

後期門信徒講座

講師 千暁寺住職 日下 正実師

講題 『お念仏の風光(風向)』

『一輪の花をかざして 今日もまた 浄土へ帰る 旅をつづけん』

(甲斐 和里子)

花のない部屋は淋しい。花のある部屋はにぎやかです。

どんなに粗末な部屋でも、一輪の花が生けてあれば、どれ程すがすがしい事でしょう。

そんな思いで、毎週畑賀の安芸市民病院に、お花をいけに行ってお下さっています。たった一輪の花でも、心豊かになれるのではないのでしょうか。

同じように、お念仏のない人生は淋しい。お念仏のある人生はにぎやかです。老境や病中の辛い人生の中でも、そこに一声のお念仏の花が咲いたら、その一日はどんなに明るく輝く事でしょう。

お念仏のある人生においては、今日は終わりではなく、今日は

はじまりです。終着でなく、出発です。

毎日がお浄土への出発日。いざ 行かん。



11月の法座予定

- 11月 11日.....掃除 望ヶ丘
- 11月 8日～15日.....菊花・絵画・作品展
- 11月 14日昼席午後1時より.....後期門信徒講座
- 11月 14日夜席午後7時より.....出張法座 望ヶ丘集会所
- 11月 15日朝席午前10時より.....役員研修会 おとき
- 11月 15日昼席午後1時より.....後期門信徒講座
- 12月 2日午後5時より.....門信徒会本部役員会 忘年会

☆菊花・絵画・作品展

『露ながら をりてかざさむ 菊の花

おいせぬ秋の ひさしかるべく』(古今270) 紀友則 (きのともりのり)

【通釈】「露をつけたまま 折り取って頭髪に挿そう 菊の花

年若い秋が ずっと続いていきますように。」

今年はいつまでも暑い日が続いて、彼岸花も10月に入って咲き出すというような異常な日が続いています。菊の花も咲くのが遅いようです。今年も例年のように菊花絵画・作品展を開催します。去年は近くのラムーに来られた方が、お寺にきれいな花が展示してあるということで、



山門をくぐって見に来ていただきました。今年は庫裏の中まで入って、画や作品を見てくださるといいなと思っています。

絵画だけでなく、陶芸や木彫、刺繍・絵手紙なども、歓迎です。

出品される方は8日の午後にお寺まで持ってきてください。

また近所で何か書いたり作ったりしておられる人がありましたらご紹介下さい。



☆役員研修会

「自信教人信」という言葉があります。これは、「みづから信じ、人を教へて信ぜしむること」とか「みづからもこの法を信じ、ひとをしても信ぜしむること」という意であると伝えられています。しかし「他人に信じさせる」ということに力点を置くと、自信が自慢に、さらに驕慢になってしまう恐れがあります。「俺は信じたゾ。さあ、お前たちも信じよ！」では、信の押し付けです。

「自ら信じたところを人に教えてゆくところにまた信あり」と解して、『私がよろこんだことを伝えることによって、またわたしの信心が深まっていく』といただければいいかでしょう。「教える相手からこそ法は聞こえてくる」。拝む人こそ拝まれる人。伝道が一方通行にならないように、教える側の姿勢が問われます。

役員研修会を開催します。役員の方はお念仏のご縁をいただく時と心得て、近所の皆さんを誘ってたくさんお参り下さい。

☆御礼

永代経懇志	金	貳拾萬円	佐々木敏子殿	故	佐々木敏明様	特別永代経志として
永代経懇志	金	貳拾萬円	木村 剛 殿	故	木村 弘子様	特別永代経志として

☆御礼

特別懇志 金 貳拾万円 古川晃之殿

☆御礼

門信徒会へ	金	一封	佐々木敏子殿	故	佐々木敏明様	香典返しとして
	金	一封	木村 剛 殿	故	木村 弘子様	香典返しとして

東井 義雄カレンダー

11月

み仏さまは 私の復元力

船を造るのに一番大切でむずかしいことは、転覆しそうになったとき、元に戻る力(復元力)をどうやってつくるかということだと聞いています。

人間も、いつ転覆するかわからない危険なものをいっぱい潜ませた存在です。これを親鸞さまは「虚仮不実 地獄一定」とお示しになっています。こういう私たちを、まことのいのちに目覚めさせずにはおかないというのがみ仏さまの願いです。

これに目覚めさせていただくとき、自殺を考えざるを得ないような状態の中でも、生きることのただごとでないすばらしさと、底深いよろこびを恵んでくださいます。邪悪のとりこになって自己を見失おうとしたとき、バツと私の邪悪を照らして、「まあはずかしい！」とほんとうの私に立ち返らせてくださいます。み仏さまが、私の復元力となって、私を破滅から救ってくださるのです。

幼児の教育にはいろいろな仕事がたくさんありますが、最も大切な仕事はこの復元力を育てる仕事です。そのためには、どうしても、この時代に、み仏さまの願いにであわせていただかねばなりません。



☆研修旅行

10月29日に山口県長門市の金子みすずを訪ねる研修旅行に参りました。参加者は住職、坊主を含めて37名で、毎回必ず参加して下さる方もあり、ゆったりと座ることができ、ちょうどいいくらいの人数でした。距離があるので当日の集合は午前7時と少し早いものでしたが、私が集合場所の芸陽バスの営業所に6時半に着いたときは、もう10人前後集まっておられました。

天気予報が少し悪くて雨の心配もあったので



前に有った[山口キララ博覧会]の会場のすぐ近くでした。明栄寺はとても立派なお寺で、内陣も境内もきれいに整えられていてびっくりいたしました。歴史も古く、由緒あるお寺でした。

明栄寺の皆さんに、とても歓迎していただき、ありがたいご縁でした。

[おふく]の『道の駅』に寄ってそれから仙崎に向かいました。昼食後『金子みすず記念館』を訪れました。予想していたよりもキレイで直筆なども展示してあって、とても見やすいレイアウトで、生前を偲ぶことができました。仙崎の道々に『金子みすず』の詩が飾ってあり、風情のある町並みで研修に来てよかったと実感しました。

次に訪れたのは、金子みすずの墓所のある『遍照寺』です。しかし遍照寺はいにく本堂の修復中で、中に入ることはできなかったのですが、境内で住職さんからお話していただきました。



すが、予定通り、7時に出発いたしました。途中瀬野大橋で7名合流され、最初の目的地の山口市の阿知須の明栄寺に向かいました。随泉寺の研修旅行はずっと芸陽バスでお願いして来ましたが、今回も同じく芸陽で実施しましたが、今回も同じく芸陽で実施しました。運転手さんの名前を聞いてびっくりです。なんとご門徒の吉本さんのご次男でした。

予定より少し早く10時前に明栄寺に到着しました。阿知須というところに初めてかましましたが、なんと3、4年



とてもよくわかるお話で、生前の金子みすずのすがたが浮かんで参りました。金子みすずの詩はとても仏様の心がよく現れていますが、おばあさんに手をひかれて、お寺に参っていたようです。

最後に橋を渡って王子山の上から、仙崎の町を眺めました。楽しい一日を過ごし、予定より少し遅れて中野に帰ってきました。